

2018 大会プレイバック

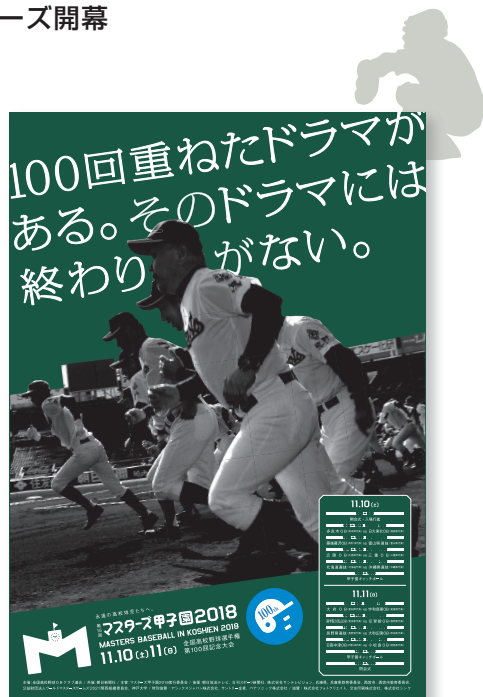
<マスターズ甲子園2018全国高校野球選手権第100回記念大会・第15回大会> 2018 - 2019 シリーズ開幕

第15回大会では、各地方予選大会で代表権を得た、多良木(熊本県代表)、日大東北(福島県代表)、藤嶺藤沢(神奈川県代表)、富山県選抜(富山県代表)、広陵(広島県代表)、三重(三重県代表)、北海道選抜(北海道代表)、沖縄県選抜(沖縄県代表)、大府(愛知県代表)、宇和島東(愛媛県代表)、国学院久我山(東京都代表)、伝習館(福岡県代表)、長野県選抜(長野県代表)、大和広陵(奈良県代表)、日高中津(和歌山県代表)、小松島(徳島県代表)の計16チームが出場しました。このうち、多良木は現役高校野球部も甲子園非出場であり、高校創設以来、悲願の甲子園初出場となりました。

これらの出場16チームの計741人の選手がベンチ登録、このうち高校時代での甲子園非出場者は607人でした。最年少は18歳、最高齢は、小松島高校OBの稲井稔氏(78)が出場しました。また、2019年3月31日に閉校し、97年の歴史に幕を閉じた多良木高校の山村修児氏・一臣氏親子が、母校の野球部を代表し、選手宣誓を務めました。

甲子園キャッチボールには、34都道府県より計373ペアが登録。「球友編」に43ペア、「親子編」に144ペア、「夫婦編」に46カップル、「ボランティア編」に2ペアが参加しました。また、今大会では、夏の全国高校野球選手権大会が記念すべき第100回を迎え、これまでの高校野球関係者やファンなど、高校野球サポーターを対象とした「サポーター編」と、未来の高校球児を応援する「キッズ編」を特別プログラムとして開催し、両日合わせて「サポーター編」は28ペア、「キッズ編」は67ペアが参加しました。大会2日目には、甲子園キャッチボール特別編として「ワールドマスターズゲームズ2021関西応援プログラム」を開催し、WMG2021関西への参画者(選手・ボランティア・応援や観戦)同士の46ペアが甲子園でキャッチボールを行うことでWMGにエールを送りました。

式典司会は、今年も高校野球選手権大会の初代学生司会である山内佑利子氏が担当。夏の大会の開会式で入場行進のプラカード係を担当している市立西宮高校のOGが、当時プラカードを持てなかった同校のOGと共にプラカード先導役を務めました。その他、かつて甲子園に憧れた審判員を含む、計744人のスタッフ・ボランティアが、それぞれの想いを胸に、第15回大会の全プログラムを支えました。



マスターズ甲子園 2018 試合結果

第1日目 (11月10日)

第1試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
日大東北 (福島県代表)	2	3	0	0	0	0	1x		6
多良木 (熊本県代表)	2	0	1	2	5	2			12

第2試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
富山県選抜 (富山県代表)	0	0	0	3	0	1	2	0	6
藤嶺藤沢 (神奈川県代表)	1	1	0	2	0	3	0	1x	8

第3試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
三重 (三重県代表)	0	4	1	0	4	1	3		13
広陵 (広島県代表)	4	0	0	0	0	1	0		5

第4試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
沖縄県選抜 (沖縄県代表)	0	0	0	5	2	0	0x		7
北海道選抜 (北海道代表)	3	3	0	2	6	3			17

第2日目 (11月11日)

第1試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
大府 (愛知県代表)	0	2	4	0	2	0	0	0	8
宇和島東 (愛媛県代表)	0	2	0	3	0	0	3	1x	9

第2試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
伝習館 (福岡県代表)	2	0	0	0	0	0	2	0x	4
国学院久我山 (東京都代表)	0	0	2	0	6	1	1		10

第3試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
大和広陵 (奈良県代表)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長野県選抜 (長野県代表)	0	0	2	3	1	1	0	0x	7

第4試合

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
日高中津 (和歌山県代表)	1	0	0	0	0	0	0	0x	1
小松島 (徳島県代表)	5	1	2	3	3	0	0		14

X はインニングの途中で試合が終了したことを表す